

九日間で得た確信

明見中学校

井上 結愛

今回の姉妹都市派遣事業は、一生の宝物になる経験ができました。特に、ホームステイに関しては、自分の英語力の物足りなさと伝えようとする気持ちの大切さを実感しました。日本では体験できない、自分の持つ力で考えて活動するという有意義な時間を過ごすことができました。

この事業の参加要項が学校で配られたとき、私は心が跳ね上りました。中学2年生のときにこの存在を知り、「英語だけでの生活」に興味と憧れを抱いていたからです。ホームステイしたことのある先輩から話を聞いたときには、自分にできるのかという気持ちと挑戦してみたい気持ちでいっぱいになりました。

学校で、日本語と英語の面接試験をしたときは、緊張よりも挑戦したい気持ちが大きくて自分なりに表現をすることができました。合格の知らせが来たときには、本当に嬉しかったです。全5校からの選抜者が集まって、たくさんの研修を重ねました。皆最初は緊張していましたが、しばらくすると仲間の意識を持つようになり、打ち解けることができました。それと同時に、皆が楽しみにしているということが伝わってきて、私も正直楽しみな気持ちが大きくなっていたことをよく覚えています。

そして、コロラドでの生活について、今までにないくらい良い経験ができました。一番感じたのは、コミュニケーションの違いです。日本人の大体の人たちは、それなりに慣れた相手でないとあいさつをしにくいと思います。しかし、デンバー空港での入国審査の人や税関の人、ホストファミリーや街の人達と会話をすると、気さくに話しかけてくれたり、笑顔やジェスチャーも交えて話していく「打ち解けようとする」というのが感じられました。弟のブローディー君が話しているときに、1つ上のアディーちゃんが「ゆっくり話してあげて」と言ってくれたところに、日本人との違いをよく実感しました。

日本とアメリカの違いは、他にも見つけられました。それは、ほとんどの物のスケールが大きかったことです。ファミリーと一緒に映画館に行ったときによく感じました。屋外にとても大きなスクリーンがあり、車のステレオから音を流して映画を観るという日本には無いタイプの映画館で驚きました。映画の内容も、日本語表示は無かったので自分の持つ力を振り絞って観る事ができたし、日本で公開がされていないものだったのでとても楽しかったです。

コロラドに行く前に私は、自分の英語の能力がどこまで通じるのか試したいと思っていました。そして、現地で実際に会話をして思ったことは、まだ私には英語を学んでいくことが必要で、外国の方ともっと心を通わせ合えるようにならなければいけないということです。私は将来、翻訳や通訳などの英語に関わる仕事に就きたいと思っています。そのため今私がしなければいけないことは、コロラドでのホームステイやデンバー市内を巡ったこ

となどの貴重な体験から感じたことを活かして、夢を叶えられるように努力することです。そして、その努力を必ず成果として実らせて、人々の役に立てるようになりたいです。そうなることには、何倍もの努力が必要となるので、今以上に頑張り、何よりこの経験をするためにたくさんのお金を出してくれた家族に感謝したいと思います。